

2022 年度北海道レフェリーアカデミー第 3 回 (通算第 13 回)
事業報告書

【日時】 2022 年 6 月 25 日 (土)、26 日 (日)
【会場】 札幌市東雁来公園、ZOOM、室蘭市入江運動公園
【参加者】 審判員：一瀬 哲平、岡 聖人、濱岡 優太、山口 麗弥
インストラクター：古曽部 統太郎 RAM、今川 一輔 RAI、平石 暁史 RAI
オブザーバー：(26 日) 牧田 隆史氏、北川恵太氏 (北海道強化指定審判員)
【テーマ】自主自律

6 月 25 日

9:30 集合 @東雁来公園

11:00 試合実践 1

2022 年度 第 41 回北海道学生サッカーリーグ 1 部第 7 節

北翔大学サッカー部 - 北海道大学体育会サッカー部

主審：一瀬哲平 副審 1：濱岡優太 副審 2：岡聖人

<自己分析>

ファウルが比較的少ない試合であった。アドバンテージの適用後、アウトオブプレー時にファウルを犯した選手に対して状況は SPA になる可能性がある旨を伝え、その後反則が繰り返されないよう抑止することができたことは良かった。反省点としては、主審として打ち合わせの重要性を感じるゲームとなった。今後打ち合わせでは、ペナルティーエリアの内外の判定、その後の動きをより具体的に、的確にお願いしたい。また、タッチジャッジについてはレフェリーサイドとアシスタントサイドでより近くで判定ができるエリアを考慮して差し違いをなくしていきたい。

<INS アドバイス>

試合を通して判定基準がぶれることはなく、ファウルをファウルとしてしっかりと見極めることができていました。19 分の北翔大ペナルティーエリア内外で起きたファウル時の副審とのチームワークに大きな課題があります。あの場面では副審が明らかに内外を見極められるポジションにあり、試合前の打ち合わせが的確にできているのであれば、あのようなミスが起こり得なかったと思います。最終的には主審の判定を尊重しますが、副審の動きや役割分担も含めて、打ち合わせの大切さを理解してほしいです。



16:00 栄養講習「レフェリーのためのスポーツ栄養学」@ZOOM

講師：明治株式会社 田中麻衣子 様

レフェリーとして栄養学は技術に直結するトレーニングのひとつである。栄養と休養をバランスよく取ることでより高い効果（超回復）を得ることができる。また食事でも5大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン）を摂取できるフルコース型のメニューを普段から意識して献立を考えるべきである。



コンディションを最高潮に持っていくために消化時間を考え、そのタイミングに合ったものを摂取することが重要である。リカバリーは炭水化物とタンパク質を30分以内（ゴールデンタイム）に摂取し、水分（ミネラル）を維持するためにこまめに摂取することを意識する。

今回の講義で故障しない体づくり、より効果的な食事について新たな知識を得ることができたので今後の日常生活から意識して取り組みたいと思うきっかけとなった。

18:00 諸連絡・解散

6月26日

8:30 集合@ 室蘭市入江運動公園多目的グラウンド

10:00 試合実践2

2022年度 北海道サッカーリーグ 第4節

日本製鉄室蘭サッカー部 - ノルブリッツ北海道 FC

主審：山口 副審1：濱岡

副審2：牧田 4th：北川



<自己分析>

判定基準は概ね一貫していたと思う。注意や警告をする際の佇まいや姿勢、表情は意識的に取り組み、うまくいったのではないかと考える。判定に対して不満を持ち、私に何度もアピールをしている選手がいたが、異議での警告は個人的に「逃げ」の一手のように感じていたため避けていた。しかし、試合に集中してくれている他の選手のフラストレーションにも繋がるので、異議での警告も辞さない対応という選択肢も必要だと感じた。また、「これ以上、判定に対して言うようであれば、警告を出さなくてはいけない」という強い姿勢も必要だった。

<INS アドバイス>

競技規則を遵守させようとする姿勢、また判定基準はこの試合にマッチしたもので1試合を通じて一貫していました。競技者の意図（この試合では後方からのチャレンジがキーとなる）を把握し正しく判定していました。14分室蘭の注意のシーンですが、注意するタイミング、間の取り方は的確であった。特に競技者を呼ぶ時の手が素晴らしいと感じた。エスコートするような振る舞いでしたので、競技者も冷静さを取り戻したのでしょうか。主審に対しての異議を示す選手との駆け引きに多少苦労していた印象です。やはりどこかのタイミングで異議の警告も辞さないという毅然さも必要ではないでしょうか。どの世界でも一線を踏み越えてはいけない境界線はあると思います。

13:00 試合実践 3

2022 年度 道南ブロックリーグ

VAINFC 伊達 - 串と肴まる人サッカー部

主審：岡 副審 1：一瀬

副審 2：北川 4th：牧田



<自己分析>

試合全体を通して、手の不正利用によるものや悪意のあるもの、競技者を危険に晒す行為は厳しく判定した。45 分ペナルティーエリア内でセンタリングのボールに対して伊達の方ウルを取った場面で、伊達はボールに対してプレーする意思がなく、空中にいる相手競技者の下に潜り込むようになり怪我のリスクが高いたので PK の判定をした。この場面で判定するポジションが遠い位置だったので、もう少し争点に近い位置で判定ができていたら異議の声が上がらなかったと思う。

<INS アドバイス>

試合を通してファウルをしっかりと見極め取れていたと感じました。開始早々 4 分に伊達の選手が足を高く上げ危険な方法でプレーしたと判断し間接フリーキックを与えた場面、45 分の伊達がトリップのファウルをし、まる人に PK を与えた場面、50 分のまる人がホールディングをして伊達に PK を与えた場面、いずれも的確だったと思います。

15:30 諸連絡・解散

